

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二三（令和五）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期（一日目）

二〇二三年二月四日（土）実施

国語

Ⅰ 注意事項

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は 1 ページから 16 ページまであります。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

Ⅱ 解答上の注意

解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の 2 種類があります。

マーク式の問題で、「解答はマーク式解答用紙 10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の

例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は記述式解答用紙」と表示がありますので、記述式の

解答用紙に記入してください。

（例）

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

語り手の「自分」は、息子「柳之助」の急死による衝撃から立ち直ろうとして、同じく心の傷を被った妻「家内」とともに旅に出た。時は日露戦争（一九〇四～〇五）のさなかである。青森から函館に渡る船上で、二人は息子によく似た学生風の青年を見かけた。青年は、年上に見える一人の男性と一緒にらしかった。

幾度か自分は心の中で、「柳之助、柳之助」と呼んでみたか知れませんが、終には大きな声を出そうとして、自分で自分の無法に呆れたのです。とうとうこんな風に切出しました。

「失礼ですが、君等はどちらでいらつしやいます。」

「僕ですか。」とその書生は微笑んで、「僕は（注）江州の方からやって来ました。」

「江州？ それはまた非常なご遠方から御出懸ですな。」

「はあ。仙台に叔父が有ましてね、そこを頼って出て来たんです。ところがその叔父は戦争に行つて居ないもんですから……まあ、これから一つ北海道へ職業を見つけに行こうと思ひまして——札幌にはおもしろい職業があるといひますからね——札幌が不可けりや旭川あたりまで。」

「へえ、左様ですか。若い時はそれでなくちやあ不可。なあに、心配することは要りませんよ。働く気さいあれば、いくらも職業は見つかりますよ。」

と言ひ慰めて、自分はこの書生の質樸な、快活な、しかも男らしい気象を見て取りました。（イ）年嵩な連の男は、時々可厭な目付をして、盗むように是方を見る。この書生に彼様な連があるということは、どうしても（ウ）自分に合点がいかない。聞いてみると、偶然同伴者になつたとかで、別段友達でもなければ、同国のものでも無いらしい。いわばただ同じような漂泊者であつたのです。

家内は包の内から林檎を取り出した。それは昨夕、青森で果実売の女の群に取囲かれて、籠にあるのを買取つて来たのです。柳之助はこうした淡泊したものを好みました。家内はまたそれを憶出したとみえて、丁度悴にでも呉れるような気で、その色のまだ青々とした中でもすこしは黄ばんで甘そうなやつを、折つて二人に薦めました。自分は悴を失くしたことから、耳の遠い家内を連れてこうして旅行に出掛けて来たことまで、一伍一什を話出して、「いえ、これも何かの御縁というものでしょう。何卒まあ御遠慮なさらないで、一つ召上つてみて下さい。」とつけたして言ひました。

「どうです、君、（エ）折角の御思召だ。一つ頂戴してみようじゃ有ませんか。」と連の男はあつかましく出る。

「さあさあ。」と自分は小刀を出して薦めた。

家内は（オ）児童のように自分に椅子凭^{かか}つて、林檎を剥^むく書生の手つきを見とれておりました。追憶^{おもいで}の涙はその蒼^{あわさ}めた頬を伝^つつて、絶間^{とめど}も無く流れ落ちるという様子でした。自分等夫婦はもう慾^{よく}も得も無く、この肉身^{からだ}までも忘れてしまつて、現世で二度とは逢^あえないと思つたその倅^{おもかげ}の傍^{そば}にそこがれたのです。書生も、連の男も、果実^{かじ}を齧^かる様子は丁度饑渴^{かつ}えた獣^{けつ}のようで、音を聞いてすら、さもさも甘^{あま}そうに、食慾と血氣とで震えながら食いました。

「甘いねえ、君。」

と書生は、連の男に私語^{ささや}きながら、（カ）目を細くして林檎のにおいを嗅ぐ^かのでした。

「甘い。」

と連の男も舌鼓を打った。

やがて一時の鐘が鳴る頃は、乗客がいずれも倦^うみ果ててしまつて、手荷物を枕になるのもあれば、魚のように口を開いて甲板の上で眠っているものもある。檣^{ぼしら}の周囲^{まわり}で盛^{さかん}に起つた日露戦争の噂^{うわさ}も、いつのまにやらばつたり止んでしまつた。函館へ、早く。今は船の中でこう願^いわぬ者は無いのでした。ただ一時でもこうして長く居たいという思想^{かんがえ}の旅人は——恐らく、自分等夫婦ばかり。何故。というのは、こうしてこの青年と一緒に居て、あの柳之助を憶出すというのも、最早^{もう}たつた三時間しか無いのですから。

（中略）

いよいよ書生と別れる時が来ました。名残惜^{なごり}しさに茫然^{ぼんやり}として、群集^{ひしじみ}の中に佇^{たたず}んだまま、自分等を取囲^{とりま}く（注2）宿屋の引^{ひき}のことは愚か、そこに置いた手荷物も、手に提^かげた鞆^{かばん}も、何もかもそのようなものは忘却^{わす}れてしまつて、ただこの青年と最後の言葉を交^かしていたのです。どんなに自分はこの一日の船旅を考^{かんが}えて、思いがけない人の親交^{したしみ}と別離^{わか}れに胸を打たれましたらう。

急に連の男の姿が見えなくなつたので、気が注^ついて振り返つた時は、見上げるような大な巡査が書生の胸を確乎^{しつ}と押えておりました。「それ、（注3）攫^{すり}徒^りだ」と人々は自分等の周囲^{まわり}を取巻く。

「こら、貴様は何を茫然^{ぼんやり}してる。物を奪^とられて知らずに居る奴があるか。」

とその巡査に言われて、はじめて自分はそこに置いた手荷物の無いに驚いたような仕末。

「何です、失敬な。」と書生は激昂^{こう}して、押えられた腕^{うで}を振解^{ふりほど}きながら、「僕はそのような不正なことをするような人間では有ません。」

「まあ、静にせい。貴様は一体何処の者か。貴様が不正なことをしたとは乃公^{おれ}も認めない——しかし不正なことをした男の連であろうが。」

こう巡査が言うので、自分の知っているだけの事実を並べて、決してこの青年が（注4）烏散^{うさん}なものでは無いと言解^{いはい}をしてやりました。巡査は一々首肯^{うなず}

て、どうしてあんな^(注5) 胡麻の蠅のような奴と同伴者になったか、それを書生から聞取った後、なおいろいろ尋問したり説諭したりして、自分にも早速盗難の手続をせよと言いました。(中略)

この問答の後、書生は自分等夫婦に別離^{わかれ}を告げて、ふたたび漂泊の旅に上ったのです。自分はその後姿を眺めて、亡くなった柳之助を憶出さずにいられないのでした。家内はまた其処^{そこ}へ倒れるばかりに泣いて、漸く自分に取縋^{とりすが}りながら見送りました。終には^(キ)二人して延び上り延び上り眺めて、麦藁^{むぎわら}の夏帽子、白地の^(注6) 飛白^{かすり}の書生姿、その青年の形像^{かたち}が群集の中に没^{はい}って、最後に隠れて見えなくなるまでも見送りました。

(島崎藤村「津軽海峡」による。一部改変。)

(注) 1 江州 —— 近江の国の別称。現在の滋賀県。

2 宿屋の引 —— 宿屋の客引き。

3 攫徒 —— 往来・乗り物などで、他人の金品などをかすめとる盗人。すり。

4 烏散なもの —— あやしい人。

5 胡麻の蠅 —— 旅人らしく装って、旅人をだまし財物をかすめる盗賊。

6 飛白 —— かすったように文様を織り出した織物。

問1 傍線部(ア)「自分の無法」とあるが、どういう状態を指していると考えられるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙

6

。

- ① 無意識のうちに、あたかも息子が生きているかのように振舞ってしまふこと。
- ② 息子と通りすがりの青年を重ね、出生地を尋ねるまでに立ち入ってしまったこと。
- ③ 思いもかけない大声が口をついて出そうになるほど、虚脱してしまっていること。
- ④ 見ず知らずの青年を、亡き息子の名前で呼びそうになるほどに放心していること。
- ⑤ 心中にわだかまる息子の名前を打ち消すあまり、逆に大声で叫びそうになったこと。

問2 傍線部（イ）「年嵩な連の男は、時々可厭な目付をして、盗むように是方を見る」とあるが、この時の「男」の感情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 7。

- ① 好奇心
- ② 危機感
- ③ 嫌悪感
- ④ 拒否感
- ⑤ 猜疑心さいい

問3 傍線部（ウ）「自分に合点がいけない」（エ）「折角の御思召」の本文中の意味として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答はマーク式解答用紙、ウⅡ 8、エⅡ 9。

- （ウ）自分に合点がいけない
- ① 理解できない
 - ② 許容できない
 - ③ 納得できない
 - ④ 認めがたい
 - ⑤ 許しがたい

- （エ）「折角の御思召」
- ① めったにない幸運
 - ② なかなかない機会
 - ③ 些細さなお氣遣い
 - ④ 特別のご好意
 - ⑤ わざとらしい配慮

問4 傍線部（オ）「児童のように自分に椅子凭って、林檎を剥く書生の手つきを見とれておりました」とあるが、このときの「家内」の状態の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 10。

- ① 生前の息子が好んだ林檎をこの書生も好くであろうかと、息をこらして見守っている。
- ② 生前の息子の姿を連想させる書生の様子に魅入られてしまい、目が離せなくなっている。
- ③ 生前の息子が目の前に現れたようで、あっけにとられて自分の身を支えていられなくなっている。
- ④ 書生の林檎の剥き方が息子にあまりに似ているので、理性を失い感動に身を任せている。
- ⑤ 林檎を代わって剥いてやりたいが、相手は子どもではないため遠慮し、ただ見守るだけに止めている。

問5 傍線部(カ)「目を細くして」とあるが、ここから読み取れる「書生」の感情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答はマーク式解答用紙 11。

① 感謝の念

② 幸福感

③ 追憶

④ 意外さ

⑤ 嬉しさ^{うれ}

問6 傍線部(キ)「二人して延び上り延び上り眺めて、麦藁の夏帽子、白地の飛白の書生姿、その青年の形像が群集の中に没って、最後に隠れて見えなく

なるまでも見送りました。」とあるが、この時の二人の心情はどのようなものであると考えられるか。以下の空欄に当てはまる形で、

A は15字

以内、 B は25字以内でそれぞれ答えよ(ただし、句読点も一字に含む)。 解答は 記述式解答用紙。

逃げた攫徒^{すり}は、正体を隠すために「質樸な」書生と道連れになったとも考えられる。とすると、今後の書生の「漂泊の旅」は A と想

像され、二人は B と心配している。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】文学科（英米文学専攻・心理学専攻）

教育学科

経済学科

経営学科

経済情報学科

芸術学科

スポーツ科学科

栄養学科

【短大】現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

【大学】文学科（日本文学専攻・歴史学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（15ページ～16ページ）

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（11ページ～14ページ）

第3問 次の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い（問1）に答えよ。

【文章Ⅰ】

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

【文章三】

そもそも、私たちの周りで、だれからも尊敬されているような人が、「速読家」だというような話を聞いたことがあるだろうか？ 会社の上司であっても、同僚であっても、あるいは友達でも構わない。多読家はたくさんいるだろう。しかし、速読を誇る人など、少なくとも私の周りには一人もない。

広い社会を見渡しても、政治家でも、実業家でも、医師でも、学者でも、コンサルタントでも、よく速読本に謳^{うた}われているように、速読法のおかげで偉業を成し遂げたなどという例には、まずお目にかかることができない。速読本の著者にしても、その技術を生かして、本は書けたであろうが、それ以外にどんな成功を収めたのかはまったく謎である。

一ヶ月に本を一〇〇冊読んだとか、一〇〇〇冊読んだとかいって自慢している人は、ラーメン屋の大食いチャレンジで、一五分間に五玉食べたなどと自慢しているのと何とも変わらない。速読家の知識は、単なる脂肪である。それは何の役にも立たず、無駄に頭の回転を鈍くしているだけの贅^{ぜい}肉である。決して、自分自身の身となり、筋肉となった知識ではない。それよりも、ほんの少量でも、自分が本当においしいと感じた料理の味を、豊かに語れる方が、人からは食通として尊敬されるだろう。読書においても、たった一冊の本の、たった一つのフレーズであっても、それをよく噛^かみしめ、その魅力を十分に味わい尽くした人のほうが、読者として、知的な栄養を多く得ているはずである。

「オレは本を何冊読んだ！」と言っても、「で？」と笑われるのがオチだ。しかし、「オレはあの本のあの一節にメチャクチャ感動した！」と言うのは、単純にカッコイイし、その人の人間性について、多くを伝えてくれるだろう。

端的に言って、速読とは、「明日のための読書」である。翌日の会議のために速読術で大量の資料を読みこなし、今日の話題のために、慌ただしい朝の時間に新聞をざっと斜め読みする。

それに対して、スロー・リーディングは、「五年後、一〇年後のための読書」である。それは、今日、明日という即効性があるわけではないが、長い目で見たときに、間違いなく、その人に人間的な厚みを与え、本当に自分の身についた教養を授けてくれるだろう。私たちが尊敬するのは、もちろん、そういう人だ。

今やネット検索の時代である。単なる物知りであることには何の意味もなくなった。およその意味を知りたいだけなら、誰もがその語句を検索してみるだろう。しかし、それ以上の理解は、ネットの検索だけでは不十分である。スロー・リーダーの出現は、情報化社会において、猛スピードで交換されている表面的な知識を補うという意味で、反動どころか、いわば現代の必然なのである。

(平野啓一郎『本の読み方 スロー・リーディングの実践』による。一部改変。)

問1 Tさんは授業で【文章Ⅰ】と【文章Ⅲ】を読んで、「読書」について自分の考えを整理するために、次のようなメモを作成した。後の問いに答えよ。

(1) 共通している要素 どちらも「読書」について論じている。



(2) 「読書」の捉え方の違い

【文章Ⅰ】 これからの時代は、素早い情報スクリーニング術や素早い A が欠かせない。その基本が速読術である。そのためには、パラグラフ単位で B することである。本は必ずしも、はじめから最後まで全部読む必要はない。

【文章Ⅲ】 C は「明日のための読書」であり、 D は「五年、十年後の読書」である。その人に E を与え、本当に身に付いた教養を授けてくれる。



(3) まとめ

F

(二) Tさんが作成したメモの空欄

A

E

に入れるのに最も適当な語句を、本文中から抜き出して書け。解答は

記述式解答用紙。

(三) Tさんは(1)と(2)を踏まえ、「まとめ」を書いた。空欄 F に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

解答はマーク式解答用紙

12

① 初めから最後まで素早く読み、本に書かれていることを理解することが読書の喜びである。そのためには、自らの読書生活を振り返り、読書に対する認識を改める必要がある。

② 現代を生きるには速読術が必要不可欠なのかもしれない。しかし、それ以上に充実感をもっても生きるために一冊の本をじっくり読む習慣を身に付けていきたい。

③ ふさわしい読書を選択できるようにするには、一冊の本をじっくり読む必要がある。一冊の本を繰り返し何度も読み返し、知的な栄養をしつかり蓄えられるようにしたい。

④ 「読書」には、娯楽に特化した本を読むことは含まれておらず、ある程度の知識を自分のものにするといった精神鍛錬が必要である。そのため、スロリー・リーディングは効果がある。

第4問【古文】 次の詞書と和歌は『建礼門院右京大夫集』による。これを読んで後の問い(問1～6)に答えよ。

十二月一日ごろなり(ア)しやらむ、夜に入りて、雨とも雪ともなくうち散りて、(注1)村雲騒がしく、ひとへに曇りはて(カ)ぬものから、むらむら星うち消えしたり。(注2)引き被^{かづ}き臥^ふしたる衣を、更けぬるほど、(イ)丑二つばかりにやと思ふほどに、引き退けて、空を見上げ(ク)たれば、ことに晴れて、(注3)浅葱色^{あさぎ}なるに、光(コ)ことごとしき星の大き(シ)なるが、むらもなく出でたる、(ウ)なのめならずおもしろくて、花の紙に、箔^{はく}をうち散らしたるによう似たり。今宵初めて見そめたる心地す。先々も星月夜見なれたること(エ)なれど、これは折からにや、ことなる心地するにつけても、(オ)ただ物のみ覚ゆ。

(オ)をこそながめなれしか(カ)の夜の深きあはれを今宵知りぬる

(注) 1 村雲——まとまった雲。群雲。

2 引き被き——頭からかぶって。

3 浅葱色——緑がかつた薄い藍色。

問1 二重傍線部(ア)～(エ)の文法的な説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙

12

① (ア)は、過去の助動詞の連体形である。

② (イ)は、打消の助動詞の連体形である。

③ (ク)は、存続の助動詞の已然形である。

④ (ウ)は、形容動詞の活用語尾である。

⑤ (エ)は、伝聞の助動詞の已然形である。

問2 傍線部(ア)「丑二つ」とは何時ごろを指すか。最も近いものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙

13

① 午後5時ごろ

② 午後8時ごろ

③ 午後11時ごろ

④ 午前2時ごろ

⑤ 午前5時ごろ

問3 傍線部(イ)、(ウ)の解釈として最も適当なものを、それぞれ①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙、イⅡ 14、ウⅡ 15。

(イ)「ことごとしき」

- ① 大げさな
- ② おぼろげな
- ③ 古々しい
- ④ 珍しい
- ⑤ 可憐な れん

(ウ)「なのめならず」

- ① 不十分に
- ② 通りいっぺんに
- ③ 意外に
- ④ 表面的に
- ⑤ 格別に

問4 傍線部(エ)「ただ物のみ覚ゆ」から読み取れる作者の状況として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答はマーク式解答用紙 16。

- ① 以前に何度も星月夜を見たことを思い出し、今宵の光景もよい思い出となると考えている。
- ② 箔を打ち散らした花の紙が手に入らなくなったことに、生活水準の低下を実感している。
- ③ 雲に隠れてしまうのに備えて、現在の星月夜の光景を確かに覚えておこうと決意している。
- ④ 今宵の星月夜に対して新鮮な感想を抱きつつも、心の底からは喜ばずに思い悩んでいる。
- ⑤ 月齢が若く実際には月は見えないが、幻想的な星月夜を想像して辛い現実から逃れている。

問5 空欄(オ)・(カ)に当てはまる語として最も適当な組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 17。

- ① オⅡ雲 カⅡ月
- ② オⅡ月 カⅡ花
- ③ オⅡ月 カⅡ星
- ④ オⅡ星 カⅡ月
- ⑤ オⅡ花 カⅡ星

問6 『建礼門院右京大夫集』の作者が直面した事件を描いた作品として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 18。

- ① 将門記
- ② 栄花物語
- ③ 平家物語
- ④ 太平記
- ⑤ 椿説弓張月 ちん

2023(令和5)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
一般選抜Ⅰ期（1日目／2023年2月4日実施）
解答例【マーク式】

国語 【国語総合】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	④	4
	2	③	2
	3	①	2
	4	④	3
	5	②	6
第2問	6	④	4
	7	⑤	3
	8	③	3
	9	④	3
	10	②	4
	11	⑤	2
第3問	12	②	5

マーク	41
記述	59
計	100

国語 【国語総合+古文】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	④	4
	2	③	2
	3	①	2
	4	④	3
	5	②	6
第2問	6	④	4
	7	⑤	3
	8	③	3
	9	④	3
	10	②	4
	11	⑤	2
第4問	12	⑤	3
	13	④	3
	14	①	2
	15	⑤	2
	16	④	4
	17	③	4
	18	③	2

マーク	56
記述	44
計	100

記述式解答用紙 「国語」

解答例

受験番号			
志望学科			
学科	専攻	氏名	
専攻			

※専攻は「文学科」「教育学科」受験の場合に記入してください。

第1問

④	①
獲得	武装
⑤	②
執着	拍子
③	
露呈	

問2

A	B
自意識	他人
配点各	
3	

問7

B		A	
る	ひ	い	他
こ	と	う	人
と	り	こ	と
の	で	と	の
面	自	に	関
白	分	他	係
さ	を	な	と
	味	ら	は
	わ	な	、
	い	い	他
配点各			
6			
		人の中に自己を見るとき	
		、自分について思索す	

第2問

問6

B		A
る	書	必
か	生	ず
	と	し
	別	も
	れ	平
配点	が	穏
6	た	な
	く	も
	思	の
	い	で
	、	は
	そ	な
	の	い
	前	
	途	
	が	配点
	安	5
	泰	
	で	
	あ	

第3問

※文学科日本文学専攻・歴史学専攻受験者は、第4問（マーク式解答用紙）へ。

(一)

D	A
スロー・リーディング	情報摂取術
E	B
人間的な厚み	飛ばし読み
配点各	C
3	速読